

岩崎勉

いしづか つとむ

哲學者。明治二十二年一月十六日村歌山縣有田郡廣村

生れ、昭和五十年八月八日歿（一九〇一七五）。本名務。筆名小秋原禮吉。

大正十一年早稻田大學文學部哲學科卒。ドイツ小田留學、昭和二年雜誌

『理想』發刊に協力、爾後その論文の大半を同誌に發表。十六年早大

教授。

著書に『人間觀と世界觀』（昭和十一年九月）二十日理想社出版部、

『世界觀の哲學』（合著・理想社編、昭和十八年十月十日理想社）等。

『岩崎務先生古稀記念論集』（石関敬三編、昭和四十六年一月）二十日

岩崎務先生古稀記念祝賀会、早稻田大學文學部哲學研究室）刊。



人間觀と世界觀

岩崎勉著

凡ゆる異論にも拘らず、哲學の發展に於いては、目的とするところは、人間や世界に於いての、實に神妙なるもの、幸福性を伴った人間觀であり世界觀であらう。勿論現實の人間解釋や世界解釋は多く「善」・「徳」的・「道徳」的であり、それ等々普遍の實性を求めることは極めて困難なことは所論ならんが、しかしそれにして、普遍の實性を把握し、健全なる人間觀や世界觀への哲學的努力は當然あるべきである。またそれが哲學の眞實な實験のものでもあらう。



理想社出版部

岩崎務先生古稀記念論集

